

# 水道の冬期間の管理について

## ～水道管等の凍結破損にご注意を！～

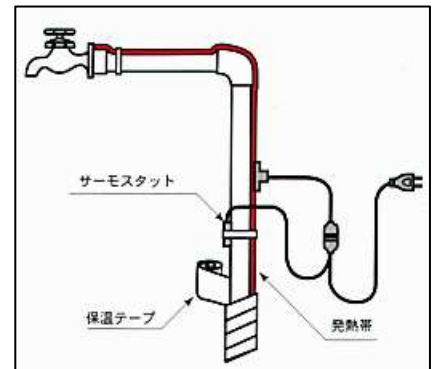
### ◎こんな時は凍結に注意

水道は気温が $-4^{\circ}\text{C}$ 以下になる12月から3月までの間、凍結しやすくなります。屋外、北側で日の当たらない場所、風当たりの強いところ、むき出しになっている水道管などは特に注意が必要です。冷え込みによっては、水道管内の水が凍って膨らみ、管を破損する恐れがあります。

### ◎凍結を防ぐ方法

#### ●凍結防止帯

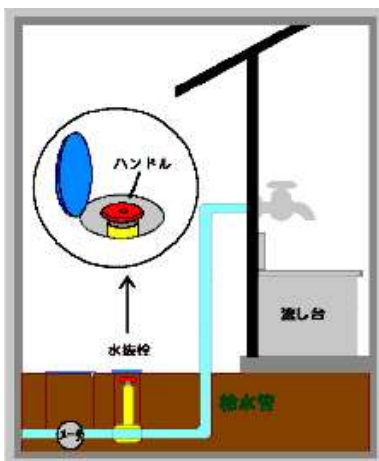
凍結防止帯は、水道管の地上に出ている部分や浅い地中の部分に巻いてあり、通电することによって管を暖めて凍結を防止するものです。当市では、ほとんどの建物の水道管に凍結防止帯が巻いてありますので、気温が氷点下になる季節になったら早めにプラグをコンセントに差し込んでください。また、コンセントに差し込んだ後でも、人や物に引っかかったり、積雪によって外れてしまうことがありますので、定期的を確認してください。凍結防止帯にも寿命がありますので、シーズン前などに点検することをお勧めします。



#### ●不凍栓（水抜きバルブ）

停電等により凍結防止帯が作動しないときや、長期間家を留守にするため、凍結防止帯の電気料を節約したいときなどは、このバルブを閉めることにより水道管内の水を抜くことができます。

##### ・水抜き栓の場合



##### ・不凍水栓の場合



ハンドルをしっかりしめて、忘れずに蛇口を全開にします。

不凍栓の操作は、必ず全閉になるよう行ってください。中途半端に閉まっていると、水抜き穴から常時水が抜けてしまうので、漏水と同じ状況になってしまいます。

お湯と水が一つの蛇口から出る混合水栓や、サーモスタット水栓、電動式不凍栓、ボイラー等の水抜きは、機種により操作が異なりますので、詳しくは販売店や施工業者にお問い合わせください。

#### ●メーターボックス内の保温

メーターボックスの中は空洞になっていて、冷気が入り込み凍結することがあります。冬期は、メーターボックス内を発砲スチロールなどの保温材で覆うと凍結防止の効果があります。ただし、検針の妨げにならないようメーターが見えるようにしてください。

## ◎水道が凍結してしまった場合

### ●自然にとけるのを待つ

水道管の中で水が凍りついてしまっても、できることはあまりありません。外気温が上がってきて氷がとけるまで待つしかありません。凍った状態で無理に蛇口をひねったりすると破損することがあるので注意してください。

### ●凍った部分にタオルをかぶせぬるま湯をかける

少しでも早く水を使いたいというときは、凍結部分にタオルや布をかぶせ、その上からぬるま湯をゆっくりかけてください。急に熱湯をかけたり、直火を当てたりしますと凍ったところが破裂する恐れがあります。

また、ヘアドライヤーの温風で温めてみるのも効果が期待できます。ただし、火災の恐れがあるのでドライヤーのスイッチを入れたままにして、その場を離れないでください。

それでも水が出ない場合は、施工業者又は安曇野市指定給水装置工事業者にご相談ください。

## ◎水道管が破裂してしまった場合

### ●破裂箇所を確認し止水

もし水道管が破裂した場合は、不凍栓等进行操作し水を止めてください。不凍栓等が見つからないときは、破裂したところにタオルやテープなどをしっかり巻いて水が吹き出るのを防ぐなどの応急処置を行ってください。

### ●破裂箇所を確認し止水

凍結破損などの修繕は、安曇野市指定給水装置工事業者に依頼してください。また、アパートや借家などは管理会社や家主に連絡してください。

修理を依頼する業者が分からないなどお困りの際は、「安曇野市水道事業協同組合」  
☎73-7234へご相談ください。

工事を行う際はトラブル防止のため、見積もりをとり、工事内容の説明を受けるなど納得した上で契約しましょう。

## ◎長期間使用しなくなった場合

通常、寒冷地では、給水給湯配管、蛇口などに凍結防止ヒーターを巻いて凍結を防いでいます。長期間使用しない場合、凍結防止ヒーターの電源を切るために水道管内の水を抜かないといけません。水道管内の水が残っていると、管を破損する恐れがあるため、元の止水栓を閉める閉栓時であっても、不凍栓で水抜きをしてください。

また、シンクなどの排水管内にあるトラップ（臭いがあがらないための水溜り）も凍結しないように作業が必要です。

ロータンの水を抜いておきます。さらに、トラップに少量の不凍液を入れておくと凍結を防げます。

### ・水洗トイレの場合

